



病理略論
上

洋学文庫
文庫8
C 339
1



滿斯歌兒篤氏口授

病理略論

大學東校學舎開鑄

大學東校學舎
鑄印局之印

題言

一和漢繙譯ノ醫書中病理書ノ如キハ未夕寥寥世
 二善本アルヲ見ス故ニ我東舎ノ生徒已ニ諸書
 涉獵シ此科ニ至テ大ニ其缺ヲ憾ム近頃山田
 生某長崎醫院ノ教師滿氏ノ口授一本ヲ所持ス
 之ヲ一覽スルニ蒼黃筆記ノ純漏輾轉寫字ノ謬
 誤亦甚夕鮮カラス因テ吾儕鹽谷退藏志村養朴
 等ト俱ニ屬讀校正シ今假ニ活版ヲ雇テ騰寫ノ
 勞ヲ省キ數百本ヲ舎中ニ藏シ以テ聊カ其責ヲ
 塞ント欲ス閱者幸ニコレヲ恕ヒヨ

病里各論 卷之二 序

一此口授ハ病理總論ノ半途ニノ業ヲ輟ル者ナレ
 ハ今其發端ヨリ證候迄ノ説ヲ斷取ノ權ニ病理
 略論上下二卷ト成シ其炊衝以下ノ論ハ姑ク他
 日ノ校正ニ讓ル蓋シ在舎ノ生徒各皆切磋淬厲
 シ油ヲ以テ晷ニ繼キ丑夜初テ寢ル者ハ同窓目
 ノ懶怠ト稱ク乃于今滿氏疊月ノ所業ヲ舉テ之
 ヲ授ルモ亦纔カ燈下一夕ノ課ニ充サルヘシ噫
 生徒ノ斯ク勉勵スルヤ良苗已ニ長ノ源泉殆ン
 ト枯ル實ニ繙譯ノ業一日モ曠フトス可シヤ
 明治辛未春二月 教官某 識



病理略論

和蘭醫官

滿斯歇爾篤氏

講義



病理學

總論

病理學トハ人身健康ノ變態即チ疾病ノ理ヲ講究
 スルノ學ヲ謂フナリ蓋シ此學ハ唯疾病ノ形狀位
 置等ヲ察スル而已ナラス其發スル所以ノ理ヲ究
 ヲ且其發スル所ノ諸症ヲ知ル者皆之ニ屬ス故ニ
 此學ハ本三次ノ科目ニ關涉ス即チ其一ハ人身體

三科不了業スルニ腫脹物ヲ割之
刺戟ヲ受テ尿管腸脹滲出物ヲ
リテ探試ヲ妨碍スルヲ原因ト云
ヒ滲出スルニハ體質變化ト云ヒ
滲出物ノ爲メニ神全刺戟サレテ
腫痛ヲ指シテ諸症ト云フ

痛理學論 卷之十一 東村官房
質ノ變化ヲ識リ其二ハ此ノ體質ノ變化ヲ起ス所
ノ原因ヲ究メ其三ハ此變化ニ由テ發スル所ノ諸
症ヲ知ルニ在リ今此學ヲ分テ總論及各論トス又
總論ハ全身ノ組織中ニ普ク關係スル所ノ變化ヲ
論シ各論ハ唯其一局處ノ變化ノミヲ論ス例之焮
衝熱ハ總論ニ屬シ肺焮衝ハ各論ニ屬スルカ如キ
是ナリ蓋シ學者先ツ豫メ總論ヲ理解セハ各論ハ
之ニ由テ自ラ了解スルヲ得ヘシ故ニ爰ニ先ツ其
總論ヨリ説起サント欲ス
夫レ病學ノ總論ハ凡ソ一般ノ病理ヲ論説ノ殊ニ

容量變ハ体中流體ノ常ヨ
リモリ容量アルヲ云ヒ又腹中元素
性情ハ尿素ノ血中ニ入ルホヲ云フ
位置變化ハ心囊水腫關節水
腫ホヲ云フ

其體質變化ノ景況ヲ究明スルヲ以テ第一ノ要務
トス抑此變化ハ唯醫士ノ望問按切ニ由テ診視シ
得ヘキ者ノミヲ斥ノ謂ナリ其他顯微鏡ノ検査ニ
關カル者ハ此ニ屬セス即チ此變化ノ凝體ニ於ル
者ハ形狀硬柔組織及位置ノ變化是ナリ其流體ニ
於ル者ハ容量性情及位置ノ變化是ナリ
第一凝體變化 滋養異常排泄異常官能異常ト云
甲大小變化
大小變化ハ其組織ニ變常ナクノ唯一部ノ大小ニ
様ニ變スル者ナリ就中其大ニ變スル者ハ榮養過

方カニテ筋肉肥大スルハ其代謝
元盛ニテ血液其部ニテ輸送シ
養分多ク分泌シテ組織ヲ増
スニアラスレテ細胞大ナリ由
故ニ極端ニテモ偏肺病的ニ灌
偏肺其向ヲ倍スレ其細胞數増
ニアラスレテ細胞大ナリ
○新陳代謝ヲ營ム機能ニツ高
アリ曰ク血液曰ク神全曰ク血管是
之即チ血液其部ニ運リ神全ハ之
ヲ主宰シ血管之ヲ運リ心也
血管ニ昂中ニ屬シ難シ何トナレ
腎ノ如キ者至リテ毛細管ヲ通
ルチ能ハス故ニ組織モ細管ハ液
ヲ吸収シテ之ヲ送リ以テ軟骨骨
營養又故ニ其初血管代也故ニ結
組織之ニ屬ス

多ノ症トシ其小二變スル者ハ榮養匱乏ノ症トス
其一肥大症ヒールプルトロヒー
肥大症ノ徵候ハ筋肉ヲ以テ最モ顯著トス是即チ
一部ノ筋肉勞力ノ過多ナルニ由テ肥大スル者ナ
リ其例ハ猶ホ擊劍家平日闘格ノ爲ニ上肢ノ筋肉
ヲ劇シク勞カスルニ由テ上膊ノ筋肉自ラ肥大ト
ナルカ如シ是レ即チ其組織ノ變ニアラス其形
ヲ増大スル者ニノ固ヨリ筋肉而已ナラス百般ノ
諸器皆然リトス或ハ偏肺ニ病アリテ其官能全々
カラサレ寸ハ必ス他人ノ偏肺大ニ其力ヲ增加ノ原

滋養變常四種アリ

- 才一 排泄常如クシテノ營養増多
ナレハ肥大ヲ致ス
 - 才二 排泄常如クシテノ營養分不
足スレハ萎縮ヲ致ス
 - 才三 排泄常如クシテノ營液ニ異常如
ク同量ナレモ液中異物ヲ送
ルハ變形症ヲ致ス
 - 才四 排泄常如クシテノ營液送不
レハ枯死ヲ致ス
- 肥大三種アリ曰ク眞性肥大曰ク假性
肥大也
眞性肥大ハ細胞大ナリテ其轉
假性肥大ハ元纖維數過増スル由
シ其轉假性壞瘍也

兩肺ニテ吸入セシ的ノ酸素ノ量ヲ引ントスルニ
由テ自ラ肥大シ又偏腎ニ病アリテ其官能ヲ廢止
スル寸ハ他人ノ偏腎本兩腎ニテ營ミシ的ノ尿ヲ分
泌セント欲シ大ニ機能ヲ勉勵メ自ラ肥大ト成ル
カ如シ然レモ只五官ノ作用ニ於テハ復此例ニア
ラス即チ一眼失明スルモ他人ノ一眼其視瞻ノ力ヲ
倍スルヲ能ハス故ニ決メ此肥大ヲ爲スヲナシ其
他耳モ亦然リトス
凡ソ此肥大症ヲ發スル所以ハ唯其血中ヨリ輸ル
養液ノ量之ヲ其體外ニ排泄スル老廢物ノ量ニ比

此章ハ充血ニ似タリ肥大ハ同
化作用増加スルナリ

肥大原因ニ五種アリ

才一 刺激機元空即チ勞
動肥大ノ類

才二 炎轉敗ニ肥大ノ疾
ス等

才三 食物ニ由ル即チ過食
ノ脂肪過用或ハ過
又窒伏私ホテ脾肥

才四 先天病ニ由ル多クハ父
母遺傳ノ由リ之ヲ患ヘ
患フハ女子之ヲ患フハ
常トス

才五 地方風土ニ關ス瑞士國
甲狀腺肥大ノ疾

スレハ甚タ過多ナルニ係ル故ニ動脈ハ自ラ増大
ノ多量ノ血液ヲ輸ルモ靜脈ハ尚依然トノ常ノ如
シ是レ決メ靜脈狹小ト成リ以テ排泄ノ機能ヲ減
却スルニアラス若シ之ニ反メ排泄ノ機能減少メ
營養ノ官能ハ猶常ノ如クナル寸ハ靜脈必ス其常
ヲ錯リテ疾病ト爲サルヲ得ス蓋シ此肥大症ニ於
テ血液輸送ノ過多ナル證據ハ其部ノ動脈ヲ結締
スルニ由テ自ラ晰カナルヘシ例之頸腫即チ甲狀
腺ノ肥大症ニ於テ其部ノ動脈ヲ結締スル寸ハ其
養分ヲ輸リ至ル血液ノ道路ヲ絶ツニ由テ速ニ治

形狀变化 瘦削 肥大 變形

才一 水分ヲ失フ之レテ乾固ト
スル者

才二 組織間ニ澱粉ヲ主ス者
才三 澱粉變性ニ種アリ

澱粉變性ニ種アリ
右未詳謂白色變質糖様變
質

才一 組織ノ變化スル者

才二 組織間ニ澱粉ヲ主ス者

澱粉變性ニ種アリ
右未詳謂白色變質糖様變
質

澱粉變性ニ種アリ
右未詳謂白色變質糖様變
質

澱粉變性ニ種アリ
右未詳謂白色變質糖様變
質

澱粉變性ニ種アリ
右未詳謂白色變質糖様變
質

澱粉變性ニ種アリ
右未詳謂白色變質糖様變
質

變形 才一 變質ニ新成形
新成形 細胞新成 新變質也

スルカ如シ又是肥大症ニ於テ神經ノミ特リ此變
ニ罹ラサル者實ニ奇異ト謂フヘシ之ニ由テ觀レ
ハ一部肥大ノ症ハ敢テ之ヲ病患ト看做スヘカラ
ス然レモ亦是或ハ疾病ト親シク關係セサルヲ得
ス例之心臟ノ瓣膜ニ病アリテ血液ノ出納常ノ如
クナラサル寸ハ心臟大ニカヲ極メテ収縮シ以テ
血液ヲ射出スルカ爲ニ此臟自ラ肥大ト成リ又尿
道狹窄ノ尿ノ通利充分ナラサル寸ハ膀胱筋ノ作
用自ラ努力スルニ由テ膀胱ノ肥大ヲ爲スカ如シ
即チ是等ノ肥大症ハ全ク獨發ノ病ニアラス畢竟

瓣膜ノ患及尿道ノ狹窄ニ係リテ發スル所トス
 一部ノ肥大ハ原疾病ニアラサレ其發スル所ノ
 部位ニ從テ亦病ニ關係セサルヲ得ス即チ其隨意
 筋ニ發スルカ如キハ格別ノ患ナシト雖モ亦其不
 隨意筋ニ發スル寸ハ甚タ疾病ニ關カルク多シ即
 チ此症ノ不隨意筋ニ發スルヤ或ハ他病ノ原因ト
 成リ或ハ他病ノ繼發症ト成リ或ハ此原因繼發俱
 ニ兼テ然ル者アリ例之甲状腺肥大ノ症ニ於テ其
 氣管及胃管ヲ逼壓スルカ爲ニ呼吸嚥下ノ機轉ヲ
 困難ナラシムルカ如キハ即チ其肥大原因ト成ル

一器假令ニ一處ニ一質ニ一處
 筋纖維ノミカ或ハ脂肪組織
 肥大スルヲ云フ

ナリ又心臟ノ瓣膜ニ患アリテ血液ヲ充分ニ迸射
 スルヲ克ハサルニ由テ其収縮力ヲ非常ニ遲クメ
 實體ノ肥大スルカ如キハ是其繼發症ト成ルナリ
 或ハ又心臟ノ瓣膜ニ障碍アリテ心臟ノ實質肥大
 ト成リ其爲ニ胸腔ヲ逼壓シ以テ呼吸困難ヲ致ス
 カ如キハ即チ實體ノ肥大ハ瓣膜ノ患アルニ由テ
 繼發症ト成リ呼吸困難ハ其肥大ノ爲ニ起ル所ニ
 メ亦之カ原由ト成ル者ナリ
 又一器一質ノ肥大症ニ於テ其部ノ組織悉ク肥大
 セス唯其組織ノミ此變ヲ爲メ他ノ組織ハ却テ之

力爲ニ萎縮スルヲアリ例之心臓ノ肥大ニ於テ筋
 肉組織ノ肥大スル寸ハ他ノ脂肪組織等ハ却テ萎
 縮スルカ如キ以テ知ルヘシ
 又婦人ノ乳房ニ時トノ是類ノ肥大ヲ發スルヲア
 リ是即チ乳房中ノ脂肪非常ニ增多スルニ由テ乳
 腺其爲ニ逼壓セラレテ還テ凋萎縮小シ之ニ由テ
 乳汁ノ分泌ヲ減少シ或ハ全ク歇絶スルニ至ルヲ
 アリ

凡ソ此肥大症ハ唯筋肉ノミニ限ラス又其他腦髓
 神經血管腺脂肪組織粘膜骨質等ニ於テモ皆然ル

者ナリ但シ體中筋肉ヲ除ク外他ノ諸形器ノ肥大
 ハ必ス其組織ニ多少變アリテ顯微鏡ノ検査ニ非
 サレハ復之ヲ顯然知ルヲ能ハス故ニ本來純粹ノ
 肥大症ニアラスト雖凡亦一般之ヲ肥大ト名ツク
 即チ時トノハ諸般ノ體器中ニ脂肪組織ヲ增多ノ
 全身至ラサル處ナク之カ爲ニ終ニ死ニ抵ルヲア
 リ故ニ脂肪組織肥大ノ變ハ大抵脂肪ノ増加スル
 ニ在リ又内空諸器ノ肥大ニ於テ假令其外圍ハ増
 大スルモ其内容ハ増加スルヲナク或ハ却テ縮小
 スルヲアリ例之心臓及膀胱等ノ如キ外圍ハ増大

スト雖凡内容ハ俱ニ潤大ナラス其裏面ノ粘膜ハ却テ減縮スルヲアリ又一器一部ノ實質ハ肥大マト雖モ其外圍ハ却テ減少スルヲアリ例之猶ト骨ノ如シ假令外圍ハ収固スルモ内部ハ其海綿様組織中ニ土質増加ノ強硬ト成ルカ如シ又一器一部ノ肥大スルニ由テ却テ其官能ノ爲ニ利益アルヲアリ例之心臓ノ瓣膜ニ缺損アリテ血液ヲ出納スルヲ全タカラサルニ由テ其心臓肥大スルカ如キ是ナリ蓋シ此瓣膜ノ缺損スルヤ若シ心臓ノ肥大セサル寸ハ其機力血液ヲ出納スルヲ能ハスノ血

強硬土質分ヲ滲出シテ海綿
体厚クナリ已ニ海綿体ヲ減スルニ
及テ下ニテ硬結トシ海綿体中
ノ如クナリテ組織変レテ夫レヨリ
海綿体ヲ減スルニ至ル

液自ラ心房中ニ残留ヒサルヲ得ンヤ然レ但シ此肥大症ハ必ス一部ノ増大スルヲ常トス然レ凡亦強子其増大ヲ以テノミ盡ク之ヲ肥大ト看做スヘカラス故ニ唯其外容ニ拘ハラズ必ス實質ノ増加スルヲ以テノミ之ヲ肥大ト看做スヘシ例之脾臓ニ許多ノ血液ヲ含蓄シ以テ増大スルカ如キハ是肥大ニアラス何トナレハ若シ其含蓄スル所ノ血ヲ洩ス寸ハ隨テ縮小スル者ナレハナリ肥大ノ原因ハ未タ之ヲ詳悉スルヲ能ス蓋シ一器一部ノ機能充盛スルニ由テ肥大ヲ爲ト謂フモ未タ

或人説云ハ瑞士國ハ中間
ニ民平日雪水ヲ飲ム故ニ甲状腺
肥大ヲ發スルト云フ其理未詳

之ヲ確徴スルヲ能ハス即チ唯此肥大ノ原因ニ就
テ醫士ノ寓目スヘキ所ノ事件左ノ如シ第一住居
ノ地方ニ關係ス例之瑞士國ニ於テハ甲状腺ノ肥
大ヲ患フル者多シ是レ全ク其地ノ風土氣候ニ係
ル者ナリ第二ハ人身資質ノ性情ニ關係ス即チ此
性情ハ先天後天俱ニ然リトス例之瘰癧質ノ人ハ
多ク口唇ノ肥大ヲ兼有スルヲ以テ其證トスヘシ
第三ハ各人平素ノ攝生ニ關係ス例之常ニ滋味膏
粱ヲ飽食シ逸居ノ肢體ヲ勞役セサル者ハ脂肪大
ニ增多ノ肥滿シ又農夫ノ如キ粗食ヲ常トメ力作

ヘルナルト氏ノ經驗ニ據ルハ卵巣ヲ截除スルハ百人中七十人ハ生命ヲ有トス

ヲ勉メル者ハ肥滿スルヲ鮮ナキカ如シ第四ニハ
人身ノ或ル生殖器ヲ除クニ關係スルヲアリ例之
男子ノ睪丸或ハ婦人ノ卵巣ヲ截除スル寸ハ其人
必ス肥滿スルカ如シ是皆以テ其關係ヲ保證スル
ニ足ルヘシ以上肥大ノ症ヲ説了レハ隨テ次ニ是
類症ヲ論スルニ要アリ

其二增大症

右ニ舉ルカ如ク榮養ノ過多ニ因ラヌノ又一器一
部ノ増大スルヲアリ例之内空ノ諸器即チ膀胱等
ノ如キ其内ニ尿ノ蓄積充盈スル寸ハ之カ爲ニ必

ス膨脹ノ其外圍ヲ増大スルカ如シ蓋シ凝體ノ斯ク内實スルニ於テモ亦其理ヲ同フス例之骨體ニ癌腫ヲ生スル時ハ之カ爲ニ骨ノ實質ヲ膨起スルニ由テ其周圍ヲ増大スルカ如シ是レ全ク榮養ノ過多ナルヨリ發スルニ非ラス其實質中ニ生スル物ヨリ起ル所トス但シ一器一部ノ此増大ニ罹ルヤ或ハ其自己ノ官能ヲ碍ル者アリ或ハ他ノ此接セル形器ノ官能ヲ妨クル者アリ而シテ此妨碍ハ壓迫ニ由ル者アリ或ハ原生學的ノ理ニ關カリテ然ル者アリ例之腦中ニ多量ノ漿液ヲ滲出ノ其壓迫

ノ爲ニ自己ノ官能ヲ妨クルカ如シ是即チ自己ノ妨碍ヲ成ス者ナリ又無名動脈ノ狹列屈ヲ發メ其壓迫ノ爲ニ呼吸困難ノ症ヲ起スカ如シ是即チ他器ノ機能ヲ碍ユル者ナリ又肝臟増大ヲ致メ肺ノ橐籥ヲ妨ケ子宮増大スル寸ハ乳腺ノ機能ヲ減却スルカ如キハ俱ニ是レ逼壓ニアラスノ原生學的ノ理ニ關係スル者ナリ

其三萎縮症アトロヒー

諸般ノ形器榮養過多ニ由テ肥大ヲ爲スカ如ク亦其匱乏ニ由テ一器一部ノ凋萎縮小ヲ致スヲアリ

類核減スルト核増スルト

眞白トハ元氣維數是也
通リ存シ假性アトロピーハ元氣維
數減スル者ナリ

アトロピー將來
才一血液調和変常

甲 血液分量変常
乙 血液成分変常

是レ造血器病由レ例之病的
滋養ヲ絶テ或ハ胃液胆汁等液
分泌ヲ減ス

才二血液減少例之ハ全副前
漏膿瘍蜜尿乳汁等出ス
過度

才三 器械的或ハ神空碍礙
痛慢性産子病ハ全身
アトロピーヲ惹ス

高位萎縮

才一血液輸送
才二官能廢止

才三 高位使用過度例之ハ通過度
才四 組織一部壓縮ヤルニ由ル
才五 藥劑ニ由ル見レ龍胆ヲ服シ學凡小カカ如

但シ此症ハ實質ノ變化ナクメ著シク其形ヲ減少
ス是レ原其榮養ヲ取ルノ寡キニ由リ或ハ其養分
ヲ輸ルノ乏キニ由テ發スル者ナリ凡ソ此症ハ人
身ノ健態病状俱ニ常ニ發スルヲ多シ例之初生兒
ニ固有セル「テーム」腺ノ其成長發育スルニ隨テ
漸ク縮小メ終ニ烏有トナリ又婦人老衰スルニ隨
テ卵巢漸ク縮小スルカ如シ其他都テ人ノ老衰ス
ルニ隨テ體器ノ悉ク凋萎縮小スルモ亦此理ニ同
シ抑病的ノ萎縮症ハ例之隨意ノ筋肉ヲ久シク使
用セスメ放置スル寸ハ動脈血ノ資給自ラ減却メ

全身萎縮一般療法

才一消化機ヲ治ム
才二排泄機過度ヲ止ム
才三核質補給策

或ハ説ニ拠テ使用セズノ動脈血
減少スル者ニテハ心臓十全ナレハ
使用セザル部或ハ汗腺ノ部トモ
同様ニ血液ヲ送り滋養成分ヲ送
スレバ只其部ノ退化機損傷
スルニアリト云フ

榮養ニ乏シク終ニ之カ爲ニ其部ノ縮小スルカ如
シ又都テ身體ノ諸部ニ麻痺ヲ發スル寸ハ其爲ニ
患部必ス羸瘦萎縮スルヲ常トス是レ即チ本部ノ
神經知覺ヲ廢メ筋肉ヲ使用スルヲ克ハサレハ自
ラ動脈血ノ資給ニ乏キニ由テ然ル者トス凡ソ老
體ニ於テハ唯細動脈ノ萎縮スル而已ナラス恐ク
ハ大動脈ト雖モ亦然ル者ナルヘシ或ハ又諸種ノ
動脈病ニ依テ腦中ニ輸ル所ノ血液自ラ減少シコ
レニ由テ腦ノ萎縮ヲ起スヲアリ又動脈ノ一部ヲ
抑壓スル寸ハ之カ爲ニ必ス其部ノ血液循環ヲ障

正サルヲ得ス假令是時他ノ比接動脈ヨリ其血ヲ
 輸ルト雖凡亦必ス多少其部ノ榮養減少シ以テ萎
 縮ヲ致ス者也故ニ慢性ノ焮衝ニ在テハ必ス其漿
 液滲出ノ爲ニ血液ノ循環逼壓ヒラレテ養分ヲ資
 給スルヲ少ナケレハ之ニ由テ萎縮症ヲ繼發スル
 ヲアリ又消化機ノ疾患ニ由テ養液ヲ體內ニ輸ル
 ヲ少ナケレハ之ニ由テ必ス全身ノ萎縮即チ羸瘦
 ヲ致サ、ルヲ得ス其他前ノ肥大症ニ於テ一器一
 部ノ全組織一齊ニ肥厚スルヲ無キカ如ク亦此萎
 縮症ニ於テモ全ク其然ルヲナシ即チ内空ノ諸器

例之心臟ニ於テ其外圍ハ變ナキモ其實質ノミ萎
 縮シ以テ内空濶大シ且周壁自ラ太厚ト成ルカ如
 シ又此症ニ於テ却テ其外圍ハ増大スルヲアリ例
 之乳房中ノ脂肪増加ノ其實質ノ乳腺ハ萎縮スル
 モ亦乳房ノ著シク増大スルカ如キ以テ知ルヘシ

乙 形状變化

形状ノ變化ハ概子大小ノ變化ヲ兼ルモノ固ヨリ
 予カ論ヲ竣ス蓋シ是變化ハ或ハ焮衝ニ由リ或ハ
 逼壓ニ由テ發スル者ナリ例之今耳輪ノ一部ヲ截
 除ケハ其爲ニ此一部ヲ減少シ且其形状ヲ變スル

凝体は、流体、誤ナシ、但レ其指
由時限、短シテ、硬固ヲ登スル症
ヲ見ス

ス尿ノ膀胱内ニ鬱積スルカ如シ其他又凝體ノ容
量ニ關ラスノ唯其瀦留スル時限ノ長短ニ由テ一
部ノ硬固スルヲアリ其二ハ榮養ノ過多ニ由テ此
硬結ヲ致スヲアリ例之骨ノ榮養過饒ニ由テ其海
綿様組織悉ク硬結スルニ至ルカ如シ其三ハ逼壓
ノ爲ニ發スルヲアリ是症ハ概子榮養ノ匱乏ヲ兼
スル者ナリ例之胸腔ニ焮衝アリテ夥多ノ滲出物
ヲ生シコレニ由テ大ニ肺臟ヲ逼壓シ以テ此臟ノ
硬結ヲ來スヲアリ然ル寸ハ肺ノ橐籥自ラ不全ナ
ルカ爲ニ其血液ヲ鮮活稀換スルヲ能ハス之ニ由

肺實質本ニシテ、アラス氣胞、外面
血管ヨリ滲出物ヲ生シテ氣胞、硬固
ナルニ由ル

テ全身ノ榮養ヲ乏シカラシメサルヲ得ス右ニ舉
ル三種ノ硬結ハ常ニ稀有ノ症ニ屬ス尋常視ル所
ノ症ハ或ハ一部ノ組織中ニ異質或ハ土質ヲ輸リ
以テ硬結ヲ致ス者多シ此症ハ全身中孰レノ組織
ヲ撰ハスノ發スル者ナリ就中動脈及粘膜下ノ結
締組織ニ發スルヲ殊ニ多シトス例之肺ノ肝質變
化ニ於ルカ如シ是レ肺ノ焮衝ニ由テ血管ヨリ漿
液ヲ滲出シ肺ノ氣胞全ク硬結メ恰モ肝臟ノ質ニ
變スル者ナリ或ハ斯ク液汁ヲ他部ヨリ滲出スル
ニ非スノ直チニ其部ノ硬結ヲ爲ス者アリ即チ膽

胆脂結核^{コレステロール}性アリ平素ハ牛胆酸
 弗達ニ溶解スレテ事故アリテ胆
 酸弗達不足スルハ胆脂結核
 腫^ス勝脱結石ハ尿酸或ハ燐酸アルカリ
 結合ヨリ生ス

囊及膀胱中ニ結石ヲ生スルカ如キ是ナリ其他又
 硬結ノ逼壓ニ由テ其周圍ノ硬結スルヲアリ例之
 癌腫ヲ發メ其周圍ノ組織モ亦硬結スルカ如シ
 其二軟解
 凡ソ軟解ノ原由ハ概子生活力ノ衰弱ニ係ルヲ多
 シ是レ即チ一部ノ全組織悉ク一齊ニ變スル者ナ
 リ蓋シ此症ノ顯著ナル例ハ腦及脊髓ノ乳状ニ變
 メ之ニ水ヲ灌ケハ盡ク融解メ流レ去ルニ至ルカ
 如シ或ハ結締組織モ亦軟解スルヲ見ル例之猶火
 傷等ニ於テ之ヲ見ルカ如シ筋肉及粘膜モ亦能ク

癌腫初期ハ其周圍共ニ硬結ス其
 癌既ニ軟ナルハ周圍ノ壓迫漸
 緩和シテ其周圍腐敗傾ク至
 ル故ニ軟解ニ至シラン
 才其部神至無管ニ壓シテ其部
 中ハ官能ヲ失シテ局部營養廢
 止ニ墮極ニ傾ク

軟解ス然レ凡之レ多クハ其死後ニ於テ發スル者
 トス 其論ハ猶後條ニ於テ詳カナリ 諸骨モ亦能ク軟解ス是レ即
 チ骨質中ノ加兒基塩減少スルニ由テ然ル者ナリ
 又癌腫或ハ結節ヲ發メ其周圍ノ硬結スルニ代リ
 テ或ハ其軟解スルヲアリ
 軟解ノ原因ハ第一焮衝ニアリ即チ一部ニ焮衝ヲ
 發メ漿液ヲ滲出スル寸ハ之カ爲ニ其部ノ營養自
 ラ廢止ス故ニ腦ノ軟解ハ腦ノ焮衝後ニ發スルヲ
 多シ第二ハ榮養ノ匱乏ニ在リ例之腦ノ血管ニ欠
 損アリテ血液ヲ充分腦ニ輸ルヲ能ハスノ榮養ノ

不足ナルヨリ此症ヲ發シ或ハ嬰兒ノ血液惡性ニ
 變メ假令之ヲ充分腦ニ輸ルモ亦其養分自ラ不足
 ナルヨリメ此症ヲ致スカ如シ又夫ノ内空ニ液汁
 ヲ充滿メ硬結ヲ爲スト全ク相反メ内空ノ液汁盡
 ク排泄スルニ由テ其部ノ軟解スルヲアリ即チ婦
 人老レハ乳腺漸ク減却メ乳房自ラ柔軟ト成ルカ
 如シ

丁 組織變化

體中一部ノ組織其常ヲ錯リテ一種他ノ組織ヲ生
 スルヲアリ例之心臟ハ原筋纖維ヲ以テ組會スル

カ常ナレモ若シ此常ヲ錯ル寸ハ更ニ脂肪ヲ以テ
 之ニ代ルカ如シ即チ此變化ニ二様アリ一ハ本然
 ノ組織ヨリ轉メ他ノ組織ニ化スル者アリ一ハ本
 然ノ組織悉ク萎縮メ再ヒ發生スルニ全ク他ノ組
 織ヲ以テ之ニ代ル者アリ是類ノ變化ハ一器一部
 ノ運動久シク休止スルニ由テ起ル者トス例之久
 シク病褥中ニ在テ體軀ノ運動ヲ廢スル寸ハ一部
 ノ筋肉組織全ク萎縮メ終ニ他質ニ變スルカ如シ
 又一器一部ノ官能ニ於テ更ニ已ヲ得サルノ事故
 アリテ他ノ官能ヲ勤ムル寸ハ之ニ由テ此變化ヲ

致スフアリ例之尿道狹窄症ニ於テ此道ヨリ尿ヲ
 利スルヲ能ハス久シク瘻管ヨリ之ヲ漏ス寸ハ瘻
 管ノ裏面ニ漸ク尿道ノ粘膜ト同様ノ膜ヲ生メ本
 質全ク變スルカ如シ或ハ又唯外見ノミ變メ其質
 ハ全ク異ナラサル者アリ例之關節ノ脱臼久シク
 整復セサル寸ハ周圍ノ筋組織萎縮メ此筋肉ヲ因
 繫スル所ノ結締組織ノミ過多ト成リ恰モ帽鞅帶
 狀ニ變スルモ尚其用ヲ廢セサルカ如シ是レ即チ
 筋組織ノ實質眞ニ變スルニ非サルナリ或ハ軟骨
 モ亦唯外見ノミ化剛スルヲアリ是レ即チ其質ニ

加兒塩基ノ增多スル而已ニメ復タ眞ノ剛骨ニ化
 スルニ非ラス凡ソ此類ノ組織變化中常ニ脂肪變
 化ヲ以テ殊ニ多トス即チ身體ノ一部ニ脂肪漸ク
 增多スル寸ハ之カ爲ニ筋纖維ヲ壓迫ノ終ニ之ヲ
 萎縮セシムルニ至ル例之心臟ニ脂肪增多スル寸
 ハ其實體ヲメ全ク脂肪ニ變セシムルカ如シ又西
 洋ニテハ人爲ニ由テ禽獸ノ肝ヲ脂肪質ニ變セシ
 ムルヲアリ即チ雁ニ美味ノ飼料ヲ與ヘ以テ之ヲ
 狭キ圈中ニ飼養スル寸ハ其飛動少ナキカ故ニ肝
 臟全ク脂肪質ニ變スルナリ但シ此肝ハ至珍ノ美

味ニノ西洋一般最モ賞翫シ隨テ價モ亦貴シ其他
 豚ニ於テモ亦同ク然ルヲ得ル蓋シ此類ノ脂肪
 變化ハ原血液ノ變調ニ由テ起ル者トス又勞瘵病
 者ノ肝臟ヲ剖驗スルニ或ハ其脂肪變化ヲ見ル
 アリ是レ即チ血液變調ノ證トスヘシ夫レ如此肝
 臟及筋纖維ノ脂肪變化ヲ爲スヤ皆病的ノ變化ニ
 係ル所ナリ就中唯其止ムヲ得スノ他ノ官能ヲ營
 ム力爲ニ發スル者ハ復此病的ノ變化ニ關カラス
 例之脫肛ニ於テ其粘膜變ノ皮狀トナリ以テ知覺
 ヲ失フ者或ハ尿漏ニ於テ尿道ノ粘膜ヲ痿管内ニ

生スル者或ハ脱臼ニ於テ筋纖維ノ帽勒带状ニ變
 スル者ノ如キハ皆コレ病的ノ變化ニ非ラス却テ
 其自然ヲ助クヘキ良善ノ變化トス又一部組織ノ
 織理中ニ盈ル流體ノ凝固スルニ由テ其組織ヲ變
 スルヲアリ例之腦ノ織理中ニ血液滲出ノ凝固シ
 以テ終ニ腦質ヲ硬固ニ變スルカ如シ都テ内部組
 織ノ變化ハ原榮養障礙ノ變ニ由テ起ル者ナリ故
 ニ之ヲ毛細管官能ノ變常ト曰フモ亦可ナリ又稀
 ニハ此變化ノ榮養障礙ニ關カラス器械的ノ變化
 ニ由テ起ルヲアリ即チ彈丸筋肉中ニ入テ其處ニ

癒合シ或ハ膀胱中久シク尿ノ潴留シ其壓迫ニ由テ終ニ此臟質ノ硬固ニ變スルカ如キ是ナリ

戊位置變化

位置ノ變化ハ内科ニ於テ常ニ多ク見ル所ノ變化ニノ其關係甚々緊要ナリ就中骨體癩列屈ノ如キ凝體ノ變化アレ正之レ亦本來外科ニ屬ス蓋シ此變化ノ内科ニ就テ論スヘキ者、胸腔ニ在テハ肺心ノ位置變常腹腔ニ在テハ胃腸肝脾等ノ位置變常骨盤中ニ在テハ膀胱子宮ノ位置變常是ナリ此位置變常ハ或ハ疾病ノ續症ト成リテ發スルヲア

急性胸膜炎ニテ三四日間ニシテ
片肺ノ容積ヲ滲出物ヲナス
アリ

癩列屈ニテ壞疽ニ陥ルハ炎症係
ラスレテ神全血管壓セラレテ新
期ヨリ壞疽ニ陥ル

リ例之胸膜焮衝ニ於テ滲出物ヲ生シ終ニ凝固ノコレカ爲ニ肺ヲ壓迫シ以テ其位置ヲ變スルカ如シ或ハ此變常他病ノ原因ト成ルヲアリ例之腸ノ一部ニ癩列屈ヲ起シ之ニ由テ焮衝若クハ壞疽等ヲ發スルカ如シ其他位置ノ變化ハ此形器變化ノ他ノ形器中ニ籍入スルヲアリ例之腸ノ上部反轉ノ其下部ニ籍入シ或ハ肛門ヨリ直腸ノ翻出シ腔内ヨリ子宮ノ墜脱スルカ如シ以上論スル所ノ凝體變化ハ都テ自然ノ官能ヲ妨クル者多シ

第二流體變化

往昔ノ説ニ據レハ諸般ノ疾病ハ悉ク流體ノ變化ニ由テ起ル者ナリト謂ヒ即チ諸液ノ病的變化ヲ究ムル學ヲ指メ流體病理學パピコモラールト曰ヘリ或ハ又近古以來其學流一變ノ悉ク之ヲ凝體ノ變化ヨリ起ル者ト做シ其病的變化ヲ究ムル學ヲ斥メ凝體病理學パトリタイルト曰ヘリ然レモ原生活體ハ凝流二體俱ニ相依リ相須テ諸般ノ作用ヲ爲ス者ナレハ特リ流體ノミ變化ヲ受テ凝體悉ナキヲ能ハス又凝體ノミ變化ヲ受ルニ流體ハ依然トメ全キヲ能ハス故ニ軌迹ニ至テハ此兩派ノ學

俱ニ其偏僻ナルヲ以テ終ニ之ヲ廢棄セリ凡ソ體內ノ流體ニハ二種アリ一ハ日ニ新タニ製造メ全身ノ榮養ヲ爲ス者トス即チ血液是ナリ一ハ此血中ヨリ滲出メ諸部ノ用ヲ爲ス者トス即チ諸種ノ分泌液是ナリ今血液ノ變化ヲ論センニ若シ粗惡ノ食物ヲ用ユル寸ハ乳糜必ス惡性ニ變メ不良ノ血液ヲ造釀シ以テ身體ノ榮養ニ適セサル者トス若シ又分泌器ニ妨碍アル寸ハ其不良ノ分泌液血中ニ混メ其調和ヲ變スルヲアリ例之尿道狹窄膀胱結石及腎藏病等ニ由テ尿ノ分泌充全ナ

ラサル寸ハ尿素體內ニ殘留ノ血中ニ混シ或ハ膽
 囊結石ニ由テ膽汁ノ分泌障碍ヲ受ル寸ハ不良ノ
 膽汁血中ニ汎濫シ或ハ肺臟ニ欠損アリテ此器ノ
 橐籥全カラサル寸ハ其爲ニ血中ノ炭酸ヲ悉ク排
 除スルヲ能ハスノ自ラ血中ニ鬱積シ以テ血質ヲ
 不良ニ變セシムル等ノ如キ皆以テ知ルヘシ又血
 液中ヨリ滲沁分瀘スル所ノ諸液ニ三種アリ其一
 種ハ直チニ身體一部ノ組織ヲ補給スル者ニメ所
 謂ル之ニ由テ大小形状等ノ凝體變化ヲ起ス所ノ
 液是ナリ按スルニ機液漿其二種ハ各部固有ノ官

能ヲ爲ス者ニメ即チ津唾胃液及膽汁等是ナリ蓋
 シ此諸液ハ時トメ其量ヲ増減シ或ハ其性ヲ變ス
 ルヲアリ例之津唾ノ時トメ非常ニ湧出乾涸シ或
 ハ其含ム所ノ塩氣ニ多寡アルカ如ク又胃液ノ分
 泌時トメ非常ニ増減シ或ハ其含ム所ノ酸氣ニ多
 少アルカ如シ其三種ハ血中ヨリ分泌ノ體外ニ驅
 除スル者ニメ即チ尿及汗是ナリ之レ亦時トメ其
 量ヲ増減シ或ハ其性ヲ變スルヲアリ例之尿中ニ
 蛋白質若クハ糖分等ヲ多ク含ムカ如シ
 凡ソ血液ハ其成分ノ偏少偏多ニ由テ性質ヲ變ス

ルアリ例之血液ノ成分中特リ水分ノ増加スル
 寸ハ之レニ由テ血質ノ稀薄ニ變スル者猶夫ノ水
 腫病ニ於テ見ルカ如シ又血液ノ各種原因ヨリ舍
 密的ノ變質ヲ起スアリ例之猶夫苟兒陪苦質ノ
 人ニ於テ見ルカ如シ但シ此變質ハ本醫科舍密學
 ニ係ル所ナレハ復此ニ載セズ其他唯血液容量ノ
 増減ト其諸部分布ノ多少ニ關カル所ノ變化ヲ舉
 テ次ニ論スヘシ

甲血液容量ノ増減

血液ノ容量ハ時トノ増減スルアリ即チ其量ノ

増加スル者ヲ充血トテ名ツケ其減少スル者ヲ

乏血ア子ミレハ但シ比名ハ本來無益ト云フ意味ノ

中オリヘミト云語アレ氏書ト名ツク就中其一局

處ニ血液ノ増加スル者ハ本部ニ赤色ヲ露ハス

以テ之レヲ徵知ス例之日本人浴後肌膚ノ紅色ニ

變スルカ如シ又此局處充血ハ内部ニ於テモ固ヨ

リ發スル所トス即チ此充血ヲ腦中ニ發スル寸ハ

其人謔言妄語ノ人事ヲ省セズ終ニ死ニ抵ルア

リ又之ヲ肺中ニ起ス寸ハ呼吸困難ノ症ヲ發シ其

甚シキハ終ニ窒息ノ死ニ至ルアリ然レハ全身

充血ハ局處充血ニ於ルカ如ク容易ニ之ヲ徴知シ
 難シ總テ小兒ハ血液過多ナリト雖凡コレ素ヨリ
 其發生長育ノ爲ニ然ル者ナリ大人ニ在テハ否ラ
 ス唯其榮養補給ノ度ニ適スルヲ以テ足レリトス
 故ニ大人ノ血量ハ之レヲ小兒ニ比スレハ其准ニ
 少キヲ以テ平候トス然レ凡亦平日安閑逸居ノ膏
 梁美味ヲ飽食スル者ハ血液過多トナリ體中ノ粘
 膜赤色ヲ顯シ顔面モ亦赤色ヲ呈シ肢體常ニ倦怠
 ヲ覺ヘテ其舉動太々懶慵ナルヲ常トス若シ此ノ
 如キ人ニ瀉血ヲ施ス寸ハ之ニ由テ忽チ右ノ諸症

肥胖病、症ニ於テ脫窒素物ヲ
 禁スルト其尚肥滿スルヲ見レハ
 血中ノ含窒素物割合ニ變ヒテ
 脂肪トナラシラハ別過量ノ血
 液脂肪ニ變スルニ由テ減少スル者
 ナラン

ヲ一掃シ以テ其充血タルヲ徴知スルニ足ルヘ
 シ即チ此等ノ血ヲ檢査スルニ水分甚タ少クノ固
 形分甚タ多シ蓋シ此ノ如キ血液過量ノ人ト雖凡
 唯榮養過多ノ諸症ヲ患フルノミニ其他常ニ禍
 害ヲ免カル、所以ハ全ク體中脂肪ノ分泌盛ナル
 カ爲ナリ若シ否ラスノ此脂肪ヲ分泌スルヲ少ナ
 キ寸ハ其過量ノ血液必ス大害ヲ發スル者ナラン
 故ニ其人概チ肥滿スト雖凡亦恙カナキ者多シ若
 シ又此ノ如キ多血ノ人焮衝ニ罹ル寸ハ最モ有力
 ノ防焮法ヲ行ハスンハアララス其法ハ刺絡ヲ第一

トス然レ凡日本人ニハ多血肥満ノ人甚タ少ナシ
 故ニ予カ此病院ニ從事セシ已來モ未タ其大瀉血
 ヲ行フヘキ症アルヲ見ス或ハ又全身多血ノ者ハ
 常ニ焮衝病ニ罹リ易スシト謂フノ説アレ凡是レ
 決メ否ラス却テ焮衝ヲ患フルヲ鮮ナシ
 又血液ノ成分中ニ於テ纖維質及他ノ固形分非常
 ニ増加スルニ由テ血液ノ過量ヲ致スヲアリ是類
 ニ於テハ刺絡ノ泄ス所ノ血液速ニ凝結メ大ナル
 血餅ヲ成シ此血餅ヨリ分離スル所ノ血漿甚タ少
 ナキヲ見ル此症ヲ治スルニハ血中ノ纖維質及他

ノ固形分ヲ減却スルニアリ其法ハ即チ先ツ瀉血
 ヲ行ヒ肢體ノ運動ヲ盛ニメ滋味ノ榮養物ヲ可及
 的禁忌センヲ要ス
 血液ノ容量減少スルハ過多ノ失血ニ由リ或ハ榮
 養ノ不足スルニ由リ或ハ其粗惡ナルニ由リ或ハ
 飲食消化ノ機變調メ乳糜ノ製造不良ナルニ由テ
 起ル者ナリ此ノ如キ人ハ皮膚口唇及諸部粘膜常
 ニ蒼白色ヲ成セリ是類ノ血ヲ検査スルニ其色淡
 薄ニメ鮮紅ナラス之レ即チ血中ノ紅血球減少ス
 ルニ由テ然ル者トス又此血ヲ體外ニ瀉セハ假令

鉄血球ハヒアラズ鉄ハ一種
血球製造スル切アリト云フ

凝結スルモ血餅甚タ小クノ其分離スル所ノ血漿
却テ多シ其他乏血ニ於テモ亦血液ノ容量減却ス
ルニ非ラス唯其成分中固形質ノ減少スルニアリ
就中其紅血球大ニ減少ノ血漿ノ甚タ増加スル者
多シ蓋シ此類ノ乏血ニハ鐵製ノ藥品ヲ用ユルニ
由テ其故ニ復スルヲ得ヘシ

乙血液分布

凡ソ體中諸部ニ血液ノ分布スルヤ或ハ時ニ由リ
其量平等ナラスノ一部ニ多量ノ血ヲ輸ルヲアリ
是病ハ全身ノ多血ニ由テ起リ或ハ全身ノ乏血ニ

慙愧^ニシテ赤色^ヲ顔^ニ
蒼白ナルハ其理未^ク詳^ニ相^ノ相^ノ
學家ノ説ニ拠^リハ腦ノ慙愧^ニ
怖^ル主^ル部^ニ神^經細^胞連^絡
スルニ由^ルカ

由テモ亦發スル者ナリ其他又神經ノ感應ニ由テ
此症ヲ發スルヲアリ例之人ノ大ニ激怒シ或ハ大
ニ慙愧スル寸ハ顔面忽チ赤色ヲ露ハシ又大ニ恐
怖シ或ハ大ニ驚愕スル寸ハ顔面忽チ蒼白色ニ變
スルカ如シ是レ即チ全身ノ血量増減スルニ由テ
然ルニ非ス唯局處ニ分布スル血液ノ量ニ増減ア
ルカ爲ナリ又血液ノ匱乏ナル寸ハ神經ノ中樞即
チ腦髓ニ輸ル所ノ血液ノ量寡ナキカ故ニ其補給
自ラ不足シ神經ノ感觸隨テ常ヲ錯リ以テ血液分
布ノ不等ヲ起スヲアリ殊ニ此感觸ノ過敏ナル者

ハ最モ是症ヲ發シ易シ
 右ニ舉ル局處充血ノ症ハ器械的若クハ舍密的ノ
 刺戟ニ由テ隨意ニ發セシムルヲ得ヘシ例之身
 體ノ一部ヲ打撲摩擦スルニ由リ或ハ皮膚ノ一部
 ニ鑛酸ヲ點スル等ニ由テ其部ノ赤色ニ變スルカ
 如シ即チ此局處充血ハ未タ焮衝ニ非ラスト雖モ
 亦動モスレハ之ニ繼テ焮衝ヲ發スルヲアリ其他
 個皮膚ニ於ルカ如ク内部ニ於テモ亦諸種ノ刺戟
 ニ由テ局處ノ充血ヲ起スヲアリ即チ例之慄悍劇
 烈ノ酒ヲ過飲スル寸ハ之カ爲ニ胃中ノ粘膜ヲ刺

通常唱ル実性充血ハ静脈血流
 通常如ク動脈血充血スル者
 ナルヲ
 虚性充血ハ静脈血流通過慢
 ミノ動脈充血又

戟ノ血液ノ鬱積ヲ生スルカ如シ以上舉ル局處ノ
 充血ニ二般アリ即チ器械的若クハ舍密的ノ原因
 ニ依テ發スル者ヲ實性充血^{アクトチコト名ツ}
 ク又全ク之ニ相反スル者ヲ虚性充血^{パスチコト}
 ト名ツク蓋シ是二症ハ本病性全ク相反スルヲ
 以テ治法モ亦自ラ異ナレハ宜シク之ヲ辨別セス
 ンハアル可ラス
 實性充血ノ性情ハ皆顯微鏡ノ検査ニ據テ之ヲ顯
 然見ル所ナリ即チ蝦蟇ヲ捕ヘ足端ヲ鏡上ニ装シ
 帽針ヲ以テ蹠膜ヲ刺戟スル寸ハ其部ノ毛細管甚

シク膨起シ之ニ乗ノ動脈血ノ管中ニ流湊スルノ
 常量ノ二倍或ハ三倍ナルヲ見ル是時ハ其血陸續
 トメ急ニ毛細管中ニ注入スルヲ以テ速ニ靜脈中
 ニ移リ行クヲ能ハス終ニ毛細管中ニ鬱積シ其部
 膨脹ノ赤色ヲ呈ハス平常ハ此動脈血ヲ毛細管ニ
 輸ルノ徐々ナル力故ニ漸次
ニ之ヲ靜脈ニ運
 聊モ鬱滯スルヲテ其初メハ此膨脹赤色唯帽針
 ヲ刺ス處ニノミ發スト雖正時ヲ經ルニ隨テ漸々
 周圍ニ廣ク波及ス乃チ此膨脹赤色ハ刺戟後直チ
 ニ發スルニ非ラス必ス暫時ノ後ニ發スル者ニメ
 又其針ヲ除ク寸ハ隨テ膨脹赤色共ニ漸ク減退ス

膨脹赤色ニ乘中ヲ奏スルハチ
 出血ニアリ

但シ此減退ノ模様ハ先ツ周圍ヨリ初リテ終ニ中
 心ノ針痕迄モ全ク故ニ復スル者猶ホ已前充血ヲ
 起セシト相先後ス然レ正若シ其刺戟強劇ナルカ
 若クハ經久ナル寸ハ假令已ニ針ヲ除クト雖正其
 症消散スルヲ能ス逐ニ焮衝ニ轉スルヲアリ是時
 ハ毛細管中ニ鬱積スル所ノ血中ヨリ血漿ヲ周圍
 ノ組織中ニ滲出シ此滲出物漸ク吸収メ或ハ局處
 ノ充血症自ラ消散スルニ至ルヲアリ或ハ又血液
 ノ逼流最モ強盛ニメ毛細管之ヲ受容スルヲ能ハ
 スコレカ爲メ終ニ迸裂メ出血ヲ起スヲアリ然レ

此症タル十實性ノ充血ニハ甚々鮮ナク概子虚性ノ充血ニ多シ
 虚性充血ハ器械的妨碍ニ由テ血液ノ流通ヲ遮ルヨリ發スル者ナリ例之手ノ上膊ヲ結紮スレハ其静脈血ノ歸流ヲ妨ケ以テ下部ニ鬱積ヲ發スルカ如シ又心臟ノ瓣膜ニ障碍アル寸ハ其静脈血下行大静脈中ニ鬱積シ以テ肝臟ニ虚性充血ヲ起スカ如シ其他又第二種ノ虚性充血アリ是症ハ本器械的ノ妨碍ニ由テ發スル者ニアラス毛細管ノ組織弛緩ノ彈力ヲ失フカ爲ニ發スル者ナリ即チ夫ノ

老人ノ足部ニ於テ屢々虚性ノ充血ヲ起スカ如キ是レ全ク焮衝ニ非ラス又器械的ノ妨碍ヨリ起ルニ非ラス唯其部ノ毛細管弛緩ノ彈力ヲ失フカ爲ニ發スル者ナリ或ハ又是類ノ充血屢々焮衝ノ續發症ト成テ來ルコトアリ即チ初メ焮衝ヲ起メ假令其已ニ消散スルモ亦毛細管ノ弛緩未タ全ク故ニ復セサルニ由テ此虚性充血ヲ發スルナリ例之經久ノ潰瘍ニ於テ其初メハ瘡圍ノ赤色ナルモ後ニ至レハ蒼白色ノ努肉ヲ生スルカ如シ故ニ是等ノ症ハ甚々治シ難シ又長病ニ在テ久シク褥床ニ卧

下部血液鬱積ヲ起ス末梢
神至ノ縮張遲慢尤ナリ

實性炎ハ神至ヲ鎮靜スルヲ第一
トス即チモルヒ子ヲ用ヒ次ニ冷開
法ヲ用ヒテ脈管ヲ収縮セシメ次ニ
決凍下敷ヲ塗擦シ浸出物ヲ消
散シ而シテ剥リ以テ吸収ヲ盛ニスル
ヲ常則トス收ヒ治テ止者ハ温芝
布ヲ以テ膿液排泄セシムルニ

ス寸ハ都テ脈管ノ弛緩スルニ由テ輒モスレハ下
部及ヒ低伏ノ部ニ血液ノ鬱積ヲ起シ易スシ例之
肺ノ下際ニ多量ノ血液ヲ鬱積シ以テ肺ノ焮衝ヲ
發シ甚シキハ之ニ由テ死ヲ致ス者アルカ如シ凡
ソ實性充血ト虚性充血トハ各異ノ治法ヲ以テ明
ニ之ヲ辨別スルヲ得ヘシ即チ虚性充血ニ於テ若
シ防焮法ヲ施ス寸ハ愈毛細管ノ弛緩ヲ進メテ本
病ヲ増劇ナラシムレモ亦之ニ刺動法ヲ行フ寸ハ
其弛緩ヲ復メ愈快復ニ趣ムカシムルカ如キ以テ
此病性ノ反對ヲ徴知スルニ足ルヘシ但シ實性充

血ハ概テ尋常ノ焮衝症ニ轉スルヲ多ク其血管ノ
破裂ヲ致スルハ太夕稀ナリ例之手臂ノ一部ヲ打
撲シ若クハ截斷スル寸ハ之カ爲ニ實性ノ充血ヲ
發メ焮衝ヲ起スニ至レモ亦之カ爲ニ出血ヲ發ス
ルヲナキカ如シ然レモ若シ手臂ノ一部ヲ縛紮ス
ル寸ハ忽チ虚性ノ充血ヲ發シ其部赤變腫脹シ以
テ毛細管ヨリ血漿ヲ滲出ス都テ全身多血ノ症ニ
於テハ血液ノ成分悉ク増加スルニアラス唯固形
分ノミ増多スルニ在リ例之尋常血液ノ容量ヲ百
分ト做セハ其中九十分ノ水分ト十分ノ固形分ト

リ成ル者今其二分ヲ増加ノ百二分ト成ル寸ハ其
中水分ノ量ハ猶變セズ唯固形分ノ之増加ノ十二
分ト成リ合メ百二分トナルカ如シ又血液ノ百二
分ト成ル寸其中固形分ハ八分ト成リ水分ハ九十
四分ト成ルヲアリ尚其餘ハ後ノ水腫病論ニ於テ
詳カニ説クヘシ以上論スル所ノ充血ハ唯後條ニ
論スヘキ焮衝病及水腫病ノ凡例ト做メ見ルヘシ
今又此焮衝ヲ論スルニ先ツテ豫メ死亡ノ諸態ヲ
説ンフヲ要ス

病理略論卷之上終

